



平成22年8月2日

卓話 『Bigger Better Bolder』  
国際ロータリー 第2750地区ガバナー  
辰野 克彦 様

最近、国際ロータリーあるいは地区からいろいろ注文、要請が来る。クラブ中心と言いつつながらやれ資金を出せ、会合に出席しろと言ってくる、忙しいのでできないという声を聞くことがございます。このことに関して私の考えをお話しさせていただきます。

国際ロータリー定款、細則、標準クラブ定款、これら3つの組織規定に書かれていることは守る意味があります。それ以外はクラブの自由ですが、地区からクラブにお願いをすることが2つあります。1つは国際ロータリーがクラブに対し要望あるいは推奨することを国際ロータリーに代わって地区がクラブにお願いすること、もう1つは地区としてお願いすることです。国際ロータリーの代わりに要望あるいは推奨することは、ガバナーとして各クラブに伝える義務がありますし、皆さまにはロータリークラブである以上その話を聞いていただかねばなりません。もう1つは地区として国内のガバナーで構成されているガバナー会の決議を伝えること。いずれの場合も私は誠意を持って説明をさせていただくつもりでありますし、聞き入れていただければ大変ありがたいのですが、あくまで決定権はクラブそしてロータリアンにあると理解いただいて結構です。

次に長期計画についてです。機知にとんだ名言、警句で有名なイギリスの作家、バーナード・ショーが、ロータリアンはどこへ行く、彼らは昼飯を食べに行くと言ったそうです。これを聞いたロータリアンはどう感じられるでしょうか。何も昼飯を食べに行っているわけではありません。ではどこに行くんでしょ

うか。ロータリー財団に寄付し世に貢献すること、地域あるいは国際平和につながる奉仕活動を行うことなど、いろいろあろうかと思いますが、それぞれのクラブにおいて柱になる考え

を絞っていただくのが長期計画だと思うのです。ロータリーは単年度制で長期計画は馴染まないという意見も耳にします。確かに役員は単年度制ですが、会長は直前会長、次期会長と一緒に自分のクラブが出来ること、すべきことを考え、方向性を決めていただければと思うのです。その上でもう1つ必要なのが広がりです。会長とか役員だけではなく、クラブ全会員で進むべき道を議論していただきたい。会長と会員が出来る限り知恵を出し合い、組織の存続と発展を願って1つの方向を確認し合う、これが長期計画です。

私には六本木ロータリーで不思議なことが2つあります。1つは典型的な都市型ロータリーであるにもかかわらず、地域社会に向けて地道な活動をされていること。もう1つはこれだけ国際性豊かな会員が揃っておられるのに国際奉仕活動についてはあまり取り組んでおられないことです。こちらのRIのテーマ「地域を育み、大陸をつなぐ」の「大陸をつなぐ」という所を六本木の皆様が取り組んでいただければと思って申し上げた次第です。

ご静聴ありがとうございました。

